

有限会社かさい農産

※2018年3月現在

代表者名	葛西 信昭	資本金	18百万円
設立年	2003年12月18日	売上高	74百万円(2017年3月期)
事業内容	生産(葉菜類、ゴボウ、ニンジン)、消費者直売、加工・製造	経営規模	畑3ha、生産施設11,200㎡
従事者数	17人(うち女性13人。女性内訳:役員2人、一般職3人、常勤パート8人)		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援]</p> <p>産前産後休業、育児休業、介護休業、看護休暇、短時間勤務制度等の措置、時間外労働及び深夜業の制限、母性健康管理のための措置、育児休業代替要員を確保</p> <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> <p>施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレ・シャワー)、重労働等の業務改善</p>		



岩手県一関市

経営概況

岩手県最南部の一関市にある有限会社かさい農産は、葉菜類やゴボウなどの野菜を生産、加工・販売も手がける農業法人。元々は養豚農場を基幹に、野菜は地域の生産者仲間から集荷し、いわて生協地元店舗の地場野菜コーナーに卸す流通のみを担っていた。2003年、葉菜類の生産に特化して会社を設立。従事者数は17人で、そのうち女性は13人である。

2haの露地と11,200㎡のハウスで生産される野菜は小松菜、水菜、ホウレンソウなどの葉菜類、ゴボウ、ニンジンなどの根菜類がある。生協の販売コーナーを継続し、全県域対象の共同購入

宅配用としても採用されている。また2013年には一般社団法人やさいサラダ(就労継続支援A型事業所)を開所し、業務委託の連携を広げてきた。ごぼう茶、野菜パウダーなどの加工品にも意欲的だ。GLOBAL G.A.P.、JGAPを取得し、安全な農産物の生産工程を見える化することで作業効率化を図り、女性や高齢者も安心して働ける職場づくりを進めている。

1. 経営者の理念・意識改革

養豚経営においては豚肉の輸入が自由化されるなど、品質が評価されず価格が低迷する状況に限界を感じた。他方で野菜の販売は、時にはクレームという形もあったが主婦をはじめとする購入者のレスポンスが良く、農業をする喜びが実感できたと代表取締役会長の葛西信昭氏は言う。資金面で行政の支援もあり、野菜一本での法人経営に踏み切った。

元々雇用する従業員は女性が多く、子供が小さく勤めづらい地域の母親たちにも就労の場を提供してきた。葛西氏は社会環境に沿った経営を目指し、価値観の変わり目も感じていた。長く企業経営の中心にあった「稼ぐ、勝つ、君臨する」とい



う考え方は、これからは機能しづらい。対して、女性が主に受け持ってきた子育てに見られる「一緒に、与え、育て、分かち合う」考え方に、農産会社のありようを探し求めた。安全な農作物を生産することを通して持続可能な共生社会を実現することを目標に据え、「農でつながる 農で輝く」という理念に込め現在に至る。

2. 誰もが働きやすい職場環境づくり

各自の勤務予定や仕事内容を事務所に掲示する「見える化」によって、従業員相互が計画的に仕事を進められるようにしている。就業の管理には取締役管理部長の小野寺しず子氏が当たり、要望を申し出やすい雰囲気づくりにも一役買っている。女性が働きやすい職場を目指し、出産・育児を理由とした退職者の再雇用制度や、子育てを優先した休暇の取得、保育園への送迎や家事・育児へ配慮した無理のない勤務体系、短時間勤務制度の導入などに取り組んでいる。

キャリアプランシートを元に個別面談を行い、それぞれの能力を活かして適材適所に配置。加工部門やインターネット販売など、きめ細かな配慮や感性を活かせる部門に女性従業員を積極的に登用した。生産、事務、販売、マーケティング企画等のうち、一人が3種程度の仕事をどれでもできる「多能工化」で、誰が休んでも対応できる態勢をつくっている。収穫物の積載など、力仕事が必要な現場には男性従業員の配置も欠かさない。

スキルアップできる研修会への積極的な参加も後押ししている。これまでにナチュラルフードコーディネーター、施肥設計アドバイザー、GAP指導員、農薬管理使用アドバイザーなどの資格を女性従業員も取得した。従業員の一人菅原由美氏は、料理教室や女子従業員が栽培管理する「ガールズ農場」を主宰する。「ここで畑の土づくりとカラダづくりを結びつけた食育を展開したい」と意欲的だ。

3. 母親の視点を新商品開発に活かす

2013年、「どんな商品なら我が子に食べたいか、買いたくなるか」という、家庭で調理に携わる機会が多い女性的な視点から、自社素材100%の「ごぼう茶」を初めて企画、発売した。パッケージデザインもイラストの得意な女性従業員が受け持つ。2016年には「野菜を嫌いな子供にも手軽に食べてもらうには」という発想で小松菜、ホウレンソウ、ニンジンそれぞれパウダーとして商品化した。パウダーを利用した料理のレシピ集も制作し、食育に関心が高い母親にアピールする。商品アイテム数/販売額は2013年1品/50万円→2016年5品/663万円に拡大した。

4. 交流とコミュニケーションを広げて

月1回のニュースレター「かさいくんち通信」を直接購入に同梱し、インターネット上ではFacebookやブログで、農産物や加工品について常に発信する。「安全安心」に関心が高い女性ならではのコメントが多数寄せられている。

また女性従業員の発案で始まった月1回の地域交流イベントが定着し、地域のにぎわい創出に一役買っている。参加人数は第1回15人から第24回35人に拡大した。

審査委員の声

「農でつながる 農で輝く」かさい農産には、農業を仕事にする人も食べる人も一人ひとりの生き方を大事にして、個人の可能性を引き出す取り組みが詰まっている。消費者のため農産物が安全であることを示す国際認証規格(GLOBALG.A.P.)と日本の認証規格(JGAP)を同時取得。若者が生き活きと自分と農業の関わりを表明する「かさいくんち通信」を発信。現場の空気からは女性活躍の基本・信頼できる人間の関係を誠実に守ってきたことが伝わる。